

# 教宣 せぶん

## 昔の名前で出ています

「ミレア」の語源は「ミレニアム」。直訳すると「千年間」です。21世紀という新たな世紀を迎える節目にあたって、「世紀」を切り拓いていく、「世紀」をリードしていくという壮大な意味があると「由来」の説明を受けました。「百年」を超越し、「千年」を見こした名前だったものを、わずか10年も経たずに名称変更することに、当初の志はどこにいったのかと感じずにはられません。

企業合併当初、「選択」という辛口のコラム誌に、「旧東京海上の役員OBや株主の一部から『合併新会社の名前に日動はいらない』という声がある」という記事が出ていたそうです。もっともらしい理由は語られていますが、今回の社名変更は「東京海上」「トキオマリン」に「誇り」とか、それこそ「ノスタルジー」を覚える「関係者」「権力者」がたくさんいるということをお話しているのかもしれませんが。そういう過去の実績にすぎらず、とらわれず、あるいは「誇り」とか「ノスタルジー」を潔く断ち切って、新たな時代に、新たなブランドを勇ましく築いていこうとしたのが「ミレア」だったはず。その「ミレア」を消し去って「東京海上」「トキオマリン」に戻すことは、まさに「昔の名前で出ています」と世界にむかってアピールしていることで、どう見ても前向き、先進的には映りません。

私たちの社員制度は赤字を生むという企業会計的見地で廃止が決断され、ほとんどの契約係従業員が代理店として社外に放逐されました。一方、企業合併当初の「志」や企業「イメージ」を覆してでも行われるこの社名変更によって、どれだけの費用がかかり、どれだけの費用対効果があるのでしょうか？ぜひ財務会計的見地でつまびらかにして欲しいと思いますが、生活が破壊されるからという切実な声を無視して強行された制度廃止と、権力者の「道楽」で行われるように見えるこの社名変更、一見とても対照的にみえますが、そこには「ブランド志向」という経営者の身勝手なコダワリが浮き彫りになってきます。経営者の身勝手なコダワリで、私たちの生活や雇用が破壊されてはたまりません。株主総会にむかってさらに裾野を広げ、力強く、たくましくこのたたかいをすすめましょう。